

令和3年度 滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

- 令和3年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）実施校は、全日制課程のべ33校48科、定時制課程1校1科。特色選抜（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）実施校は、全日制課程のべ18校18科であった。
- 推薦選抜、特色選抜合わせて6,117人（スポーツ・文化芸術推薦選抜132人を含む）が出願し、3,084人が入学許可予定者となった。
- 一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.07倍であった。また、出願変更率は6.1%であった。

<推薦選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】> ※（ ）は前年度であり、以下同様。

- 1 出願状況
 - 募集枠 2,113人
 - 出願者数 2,285人 出願倍率：1.08倍（1.05倍）
- 2 受検状況および入学許可予定者
 - 受検者数 2,285人
 - 入学許可予定者数 1,966人 合格率：86.0%（88.0%）

<特色選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】>

- 1 出願状況
 - 募集枠 1,118人
 - 出願者数 3,832人 出願倍率：3.43倍（3.39倍）
- 2 受検状況および入学許可予定者
 - 受検者数 3,827人
 - 入学許可予定者数 1,118人 合格率：29.2%（29.4%）

<スポーツ・文化芸術推薦選抜【推薦選抜・特色選抜の内数】>

- 1 出願状況
 - 募集枠 174人
 - 出願者数 144人 出願倍率：0.83倍（0.71倍）
- 2 受検状況および入学許可予定者
 - 受検者数 144人
 - 入学許可予定者数 132人 合格率：91.7%（93.7%）

<一般選抜・学力検査>

- 1 出願状況
 - 出願者数 6,771人（7,139人）
 - 確定出願者数 6,731人（7,101人）
 - 確定出願倍率 全日制1.10倍（1.09倍）、定時制0.47倍（0.64倍）
全・定合わせて1.07倍（1.07倍）
- 2 出願変更状況
 - 出願変更者数 413人 このうち40人は出願辞退者
 - 出願変更率 6.1%（6.6%）
 - （1）学科別出願変更率では工業学科が9.2%と最も高かった。（前年度は音楽学科の100%）
 - （2）学校出願を除く普通科の出願変更者数は237人で、出願変更率は6.1%（6.6%）
- 3 受検状況
 - 受検者数 6,713人 受検倍率 1.07倍（1.07倍）
 - 全日制6,588人 1.10倍（1.08倍） 定時制125人 0.47倍（0.63倍）
- 4 入学許可予定者
 - （1）学力検査による入学許可予定者数 5,861人 合格率87.3%（87.7%）
 - （2）入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および小学科 23校31学科（26校30科）

<二次選抜>

- 1 二次選抜募集の学校・学科および募集定員
全日制18校25科269人、定時制5校6学科147人。全・定合わせて23校31学科416人
- 2 出願状況 出願者数 102人 出願倍率 0.25倍（0.25倍）
- 3 受検状況 受検者数 99人 受検倍率 0.24倍（0.25倍）
- 4 入学許可予定者 入学許可予定者数 87人 合格率 87.9%（92.5%）

<入学許可予定者総数および実入学者数>

- 1 入学許可予定者総数 9,032人
- 2 実入学者数 9,029人
- 3 定員充足率 96.5%（96.6%）

令和3年度
滋賀県立高等学校入学者選抜結果まとめ
(全日制・定時制・通信制)

滋賀県教育委員会

令和3年度 滋賀県立高等学校入学者選抜結果まとめ

目 次

I	全日制の課程および定時制の課程	
1	募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について	・・・ 1
	(1) 推薦選抜、特色選抜の結果	・・・ 1
	(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果	・・・ 2
	(3) 一般選抜の結果	・・・ 2
	(4) 入学者選抜の結果	・・・ 3
2	学科別の受験者数、入学許可予定者数等について	・・・ 4
3	一般選抜における出願変更者数について	・・・ 5
4	一般選抜における面接・作文・実技検査について	・・・ 5
II	単位制 転・編入学、通信制の課程	・・・ 6
III	一般選抜学力検査	
1	出題の方針等	・・・ 8
2	配点等	・・・ 8
3	検査成績	・・・ 8
4	その他	・・・ 8
	【各教科の分析】	
	国 語	・・・ 9
	数 学	・・・ 11
	社 会	・・・ 13
	理 科	・・・ 15
	英 語	・・・ 17

I 全日時の課程および定時制の課程

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について ※中高一貫教育に係る人数は除く

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

推薦選抜実施校は、全日制課程の32校（普通科15、専門学科11、総合学科7 のべ33校）、定時制課程の1校（普通科1）であった。特色選抜実施校は、15校（普通科14、専門学科4 のべ18校）であった。推薦選抜、特色選抜は、いずれも2月8日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校106校中99校（昨年度107校中100校）、特別支援学校中学部13校中1校（昨年度13校中2校）、県外の中学校は13校（昨年度26校）であった。全日制の出願者数は、普通科で826人（昨年度828人）、農業学科で195人（昨年度225人）、工業学科で325人（昨年度329人）、商業学科で294人（昨年度323人）、家庭学科で90人（昨年度86人）、体育学科で41人（昨年度42人）、美術学科で44人（昨年度24人）、総合学科で462人（昨年度475人）であった。定時制は普通科の8人（昨年度10人）となった。この結果、出願者数合計は、2,285人（昨年度2,342人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日制の普通科では1.15倍（昨年度1.01倍）、専門学科で1.10倍（昨年度1.12倍）、総合学科では0.94倍（昨年度0.97倍）、定時制の普通科は0.67倍（昨年度0.83倍）となり、実施学科全体では1.08倍（昨年度1.05倍）であった。この結果、1,966人が入学許可予定者となり、合格率は86.0%（昨年度88.0%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校106校中101校（昨年度107校中103校）、県外の中学校は12校（昨年度16校）であった。出願者数は、普通科で3,684人（昨年度3,745人）、理数学科で91人（昨年度86人）、音楽学科で27人（昨年度16人）、今年度より募集を始めた文理探究学科は30人であった。この結果、出願者数合計は3,832人（昨年度3,847人）となり、出願倍率は、普通科では3.55倍（昨年度3.49倍）、専門学科では1.85倍（昨年度1.70倍）となり、実施学科全体では3.43倍（昨年度3.39倍）であった。この結果、1,118人が入学許可予定者となり、合格率は29.2%（昨年度29.4%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,084人が入学許可予定者となり、合格率は50.5%（昨年度51.6%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	入学許可 予定者数 C	合格率 C/B' (%)	
			割合(%)	人数A'						
推薦選抜	普通科	2,440	20~30	716	826	826	1.15	683	82.7	
	普通科(定)	40	30	12	8	8	0.67	8	100.0	
	専門学科	農業	400	50	200	195	195	0.98	176	90.3
		工業	720	50	360	325	325	0.90	321	98.8
		商業	480	50	240	294	294	1.23	229	77.9
		家庭	80	40	32	90	90	2.81	32	35.6
		体育	40	85	34	41	41	1.21	34	82.9
		美術	40	75	30	44	44	1.47	30	68.2
		小計	1,760		896	989	989	1.10	822	83.1
	総合学科	1,240	30~40※	489	462	462	0.94	453	98.1	
合計	5,480		2,113	2,285	2,285	1.08	1,966	86.0		
特色選抜	普通科	3,480	25~30	1,038	3,684	3,680	3.55	1,038	28.2	
	専門学科	理数	80	50	40	91	90	2.28	40	44.4
		音楽	40	50	20	27	27	1.35	20	74.1
		文理	40	50	20	30	30	1.50	20	66.7
		小計	160		80	148	147	1.85	80	54.4
合計	3,640		1,118	3,832	3,827	3.43	1,118	29.2		
総合計	9,120		3,231	6,117	6,112	1.89	3,084	50.5		

※音楽高等学校総合学科の推薦選抜募集枠には、40%の他に全国募集枠を含む（上限5名）

(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果

スポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の19校（普通科11、専門学科6、総合学科3）のべ20校であった。このうち、推薦選抜実施校は16校（普通科7、専門学科6、総合学科3）、特色選抜実施校は、全日制課程の4校（普通科4）であった。

受検者数144人に対して、入学許可予定者数は132人となり、受検者数に対する合格率は、91.7%（昨年度93.7%）となった。

(3) 一般選抜の結果

一般選抜は、学力検査定員6,276人に対し、確定出願者数は6,731人であり、確定出願倍率は1.07倍であった。また、受検者数は6,713人であり、受検倍率は1.07倍であった。この結果、5,861人が入学許可予定者となり、合格率は87.3%であった。

二次選抜は、二次選抜定員416人に対し、受検者数は99人であった。この結果、87人が入学許可予定者となり、合格率は87.9%であった。（表2参照）

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	
		令和3年度	令和2年度
学力検査	学力検査定員 A	6,276	6,649
	出願者数	6,771	7,138
	確定出願者数 (倍率)	6,731 (1.07)	7,101 (1.07)
	受検者数 B (倍率)	6,713 (1.07)	7,090 (1.07)
	不合格者数	852	874
	入学許可予定者数 C	5,861	6,216
	合格率 C/B (%)	87.3	87.7
二次選抜	二次選抜定員 A-C	416	433
	出願者数	102	109
	受検者数 D (倍率)	99 (0.24)	107 (0.25)
	不合格者数	11	8
	入学許可予定者数 E	87	99
	合格率 E/D (%)	87.9	92.5
入学許可予定者数合計 C+E		5,948	6,315

※上記には、追検査受検者1名を含む。

(4) 入学者選抜の結果

県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は9,032人であった。全日制では募集定員9,080人に対して入学許可予定者数8,893人、定時制は募集定員280人に対して入学許可予定者数139人となった。

入学許可予定者数の内訳は、推薦選抜1,850人、特色選抜1,102人、スポーツ・文化芸術推薦選抜132人、一般選抜5,861人で、二次選抜87人であった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は9,029人で、募集定員の96.5%（昨年度96.6%）となった。（表3参照）

表3 入学許可予定者数等

項目	年度	令和3年度			令和2年度
		全日制	定時制	合計	
※県内中学校卒業予定者数				13,435	13,942
募集定員 A		9,080	280	9,360	9,840
推薦選抜入学許可予定者数		1,842	8	1,850	1,956
特色選抜入学許可予定者数		1,102	-	1,102	1,116
スポーツ・文化芸術推薦選抜入学許可予定者数		132	-	132	119
一般選抜入学許可予定者数		5,736	125	5,861	6,216
二次選抜入学許可予定者数		81	6	87	99
総計	入学許可予定者総数	8,893	139	9,032	9,506
	実入学者数 B			9,029	9,503
	定員充足率 B/A(%)			96.5	96.6

※県内中学校卒業予定者数は、令和3年3月中学校、義務教育学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第2次進路志望調査による。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科、農業学科、工業学科、音楽学科、総合学科の5学科（昨年度6学科）であった。（表4および別表参照）

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	文理	総合	
募集定員 A		9,360	6,080	400	800	480	80	80	40	40	40	40	1,280	
推薦選抜	募集枠（人数）	2,113	728	200	360	240	32	-	34	-	30	-	489	
	受検者数 B	2,285	834	195	325	294	90	-	41	-	44	-	462	
	入学許可予定者数 C	1,966	691	176	321	229	32	-	34	-	30	-	453	
	合格率 C/B(%)	86.0	82.9	90.3	98.8	77.9	35.6	-	82.9	-	68.2	-	98.1	
特色選抜	募集枠（人数）	1,118	1,038	-	-	-	-	40	-	20	-	20	-	
	受検者数 D	3,827	3,680	-	-	-	-	90	-	27	-	30	-	
	入学許可予定者数 E	1,118	1,038	-	-	-	-	40	-	20	-	20	-	
	合格率 E/D(%)	29.2	28.2	-	-	-	-	44.4	-	74.1	-	66.7	-	
一般選抜	学力検査	学力検査定員 A-(C+E)	6,276	4,351	224	479	251	48	40	6	20	10	20	827
		確定出願者数	6,731	*3,900	218	371	247	74	**	**	7	**	**	778
		受検者数 F	6,713	*3,892	218	365	247	74	**	**	7	**	**	777
		入学許可予定者数 G	5,861	4,182	202	360	236	48	40	6	7	10	20	750
		合格率 G/F(%)	87.3	***	92.7	98.6	95.5	64.9	***	***	100	***	***	96.5
	二次選抜	二次選抜定員 A-(C+E)-G	416	170	22	119	15	-	-	-	13	-	-	77
		出願者数	102	41	5	17	14	-	-	-	0	-	-	25
		受検者数 H	99	40	5	17	14	-	-	-	-	-	-	23
		入学許可予定者数 I	87	36	5	17	14	-	-	-	-	-	-	15
		合格率 I/H(%)	87.9	90.0	100	100	100	-	-	-	-	-	-	65.2
総計	入学許可予定者数	9,032	5,947	383	698	479	80	80	40	27	40	40	1,218	
	実入学者数 J	9,029	5,946	383	697	479	80	80	40	27	40	40	1,217	
	過不足 J-A	-331	-134	-17	-103	-1	0	0	0	-13	0	0	-63	
	定員充足率(%)	96.5	97.8	95.8	87.1	99.8	100	100	100	67.5	100	100	95.1	
前年度定員充足率(%)		96.5	97.0	99.5	91.5	100	100	100	100	40.0	77.5	-	96.9	

* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術	普通	文理探究
一般選抜	学力検査	学力検査定員	364	40	224	6	84	10	128	20
		確定出願者数	574		314		100		148	
		受検者数	572		314		99		148	
		入学許可予定者数	364	40	224	6	84	10	128	20

3 一般選抜における出願変更者数について

出願者数 6,771 人に対し、出願変更者数は 413 人（昨年度 471 人）で、出願変更率は 6.1%（昨年度 6.6%）となり、確定出願者数は 6,731 人であった。

各学科別の出願変更率は、美術学科の 10.6% が最も高く（昨年度の最高は音楽学科が 100%）、次に、工業学科の 9.2% であった。（表 5 参照）

表 5 学科別の出願変更者数

（昨年度）

項目		学力検査 定員	出願者数 A	出願変更者数 B (第1志望を取り下げた数)	出願 変更率 B/A(%)	確定 出願者数 C	出願 変更者数	出願 変更率 (%)
学科	* 普通	3,551	3,915	237	6.1	3,900	281	6.6
	農業	224	215	18	8.4	218	30	12.6
	工業	479	371	34	9.2	371	20	4.9
	商業	251	222	8	3.6	247	9	3.6
	家庭	48	79	6	7.6	74	3	4.9
	音楽	20	7	0	0	7	1	100
	総合	827	775	35	4.5	778	69	7.6
学校 出願	普通・理数	404	602	37	6.1	574	23	4.1
	普通・体育	230	331	23	6.9	314	33	9.6
	普通・美術	94	104	11	10.6	100	2	2.3
	普通・文理	148	150	4	2.7	148	—	—
	合計	6,276	6,771	413	6.1	6,731	471	6.6

* 普通科は学校出願を除く

4 一般選抜における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は、全日制の課程では湖南農業高等学校、八日市南高等学校、愛知高等学校の 3 校 7 科、定時制の課程では、大津清陵高等学校（夜間）の 1 校 1 科であった。

実技検査を実施した学校は、石山高等学校（音楽科）、草津東高等学校（体育科）、栗東高等学校（美術科）の 3 校 3 科であった。

なお、作文の実施校はなかった。

II 単位制 転・編入学、通信制の課程

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部（滋賀県立大津清陵高等学校に限る。）で実施した転・編入学については、定員40人に対し17人（昨年16人）が入学許可予定者となり、0.43倍（昨年度0.40倍）の倍率となった。二次選抜では、1人（昨年1人）が入学許可予定者となり、合計18人（昨年度17人）が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ、一次選抜では127人の出願者（昨年度173人）に対して、127人（昨年度173人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、19人（昨年度22人）が入学許可予定者となり、合計146人（昨年度195人）が入学許可予定者となった。（表6参照）

表6 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者数 D	二次選抜		合計	
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A(%)		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A
令和3 年度	単位制 転 編 入	40	18	17	0.43	0	1	1	18	-22
	通信制	320	127	127	0.40	0	19	19	146	-174

令和2 年度	単位制 転 編 入	40	16	16	0.40	0	1	1	17	-23
	通信制	320	173	173	0.54	0	22	22	195	-125

Ⅲ 一般選抜学力検査

1 出題の方針等

問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量をみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や自らの言葉で表現する記述式の設問などの工夫を凝らした。

また各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。

国語では、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。

数学では、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

2 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点（5教科合計で540点満点）で実施した。

3 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

検査教科ごとの受検者の平均点は、国語60.4点、数学38.0点、社会40.3点、理科47.4点、英語50.5点であった。

4 その他

今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、臨時休業が実施された。このような事態の重要性、緊急性を踏まえ、令和3年度の高等学校入学者選抜については、入学志願者一人ひとりが安心して受検に臨めるよう、令和2年5月13日付2文科初第241号「中学校等の臨時休業の実施等を踏まえた令和3年度高等学校入学者選抜等における配慮事項」にもとづき、令和2年7月29日付滋教委高第944号および滋教委幼小中第601号にて出題範囲等を配慮した。

令和3年度 国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「言葉の力や表現といった国語にふさわしい内容の素材文であり、多くの生徒に読ませたい文章であった。」「文章の中に詩が引用されていたり、資料として絵が挿入されていたりするなど、共通テストにもつながる傾向の問題であり、情報を適切に整理して答えさせる設問となっていた。」「難易度が適切であり、設問のバランスもよかった。」という意見が主なものであった。

そのほかに、「ホワイトボードを使った話し合いの様子は、学習場面の設定としてよかった。」「茨木のり子の詩や中村草田男の俳句など高質の短詩型文学が出題されていたことは、言語文化の学習活動とつながるもので大変評価できる。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体をとおして、漢字や語句の使い方に関する基礎的・基本的な知識・技能の定着をみる問題や、資料を読み比べ、表現の違いをとらえる問題は正答率が高かった。一方、文脈の中における語句の意味を的確にとらえて内容をまとめる問題や、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめる問題は正答率が低かった。様々な種類の文章に触れ、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする力を育みながら、文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、それらの効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読む力を身に付けることが求められる。また、読み取った内容を適切に表現する力を身に付けるために、語感を磨き、語彙を豊かにする言語活動に主体的に取り組み、文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを形成する学習活動の充実がより一層求められる。

㊦は、「読むと書く」ということについて書かれた文章を素材にして、文脈の中における語句の意味を的確にとらえてまとめる力、文章中の言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、詩の内容をとらえる力、二つの文章を比較し、表現の違いをとらえる力をみる問題であった。

表現の違いをとらえる問題の正答率は高かったが、文脈の中における語句の意味を的確にとらえてまとめる問題の正答率は低かった。文章全体と部分との関係を的確にとらえ、目的に応じてまとめる力を身に付けることができるような学習活動を重視することが求められる。また、比喩表現の説明については正答率が大変低かった。文章の展開や様々な表現効果について評価しながら読む態度を育成し、自分の考えの形成につながるような言語活動が望まれる。

㊧は、絵本について説明された文章や資料を素材にして、文章中の語句の意味を理解したり、話の展開に即して内容をとらえたりする力、文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめる力をみる問題であった。

話の展開に即して内容をとらえる問題や知識と関連付けて自分の考えをまとめる問題の正答率が低かった。記述式解答において、目的や条件に応じて的確に表現できるよう、構成や展開、表現の仕方について評価しながら文章を読む活動に積極的に取り組み、とらえた内容を対比的にまとめたり、具体的な例示や根拠を用いて表現したりする学習活動の充実が求められる。

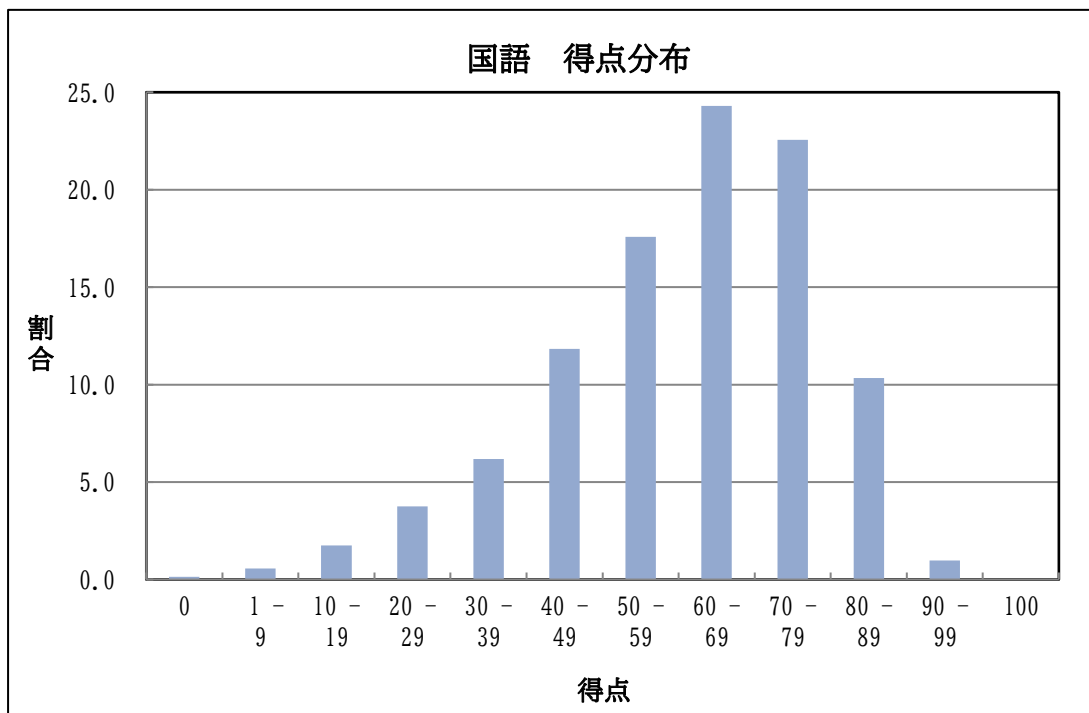
㊨は、漢字の問題については全体的に正答率が高く、基礎的・基本的事項については身に付いている。口語文法の決まりについての問題は、正答率がやや低かった。口語文法の決まりについて適切に理解する学習活動が求められる。俳句の決まりや作品に表れている書き手の思いを適切にとらえることについては概ね理解できている。様々な種類の作品に触れる学習を通して言語文化に親しみ、効果的な表現方法や作品を味わう力を身に付ける言語活動の充実が望まれる。

国 語

問題区分		正答率 (%)
㊦	1	19.3
	2	61.7
	3	47.1
	4	73.4
	5	2.5
㊧	1	74.6
	2	9.6
	3	59.5
	4	42.3

問題区分		正答率 (%)
1	①	60.4
	②	89.8
	③	29.1
	④	75.8
	⑤	66.3
2	①	95.2
	②	96.5
	③	97.4
	④	65.1
	⑤	59.8
3		66.2
4	①	64.9
	②季語	84.4
	②季節	71.3
	③イ	87.4
	③カ	74.0

年 度	平均点	標準偏差
令 3 (100 点満点)	60.4	17.5



令和3年度 数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般としては、「基礎・基本を確かめる計算問題や日常生活に関連付けた問題など中学校で学習する内容がまんべんなく出題されており、数学の知識・技能が身に付いているかを測る上で良問であった。」「日常的に使うことを数学の問題としてとらえ、会話の中から問題の状況を数学的に表現し処理する力を問う問題となっていた。」「単純な計算能力だけでなく、文章読解力、情報を整理し、問題解決への手段を導き出す能力など近年必要とされている力を問う良問であった。」などといった意見があった。

各設問については、「**1**は全体的に基本的な問題で構成されており、受検生の基礎的な学力を測るのに適していると思われる。」「**2**は、身近な題材であり基本的な問題から難しい問題までバランスよく出題されていた。」「**3**は、図形の性質をさまざまな角度から考えさせる問題であった。」「**4**は、面積と辺の長さの関係を見だし、数学的に処理する力をみる良問であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的な事項や概念については、おおむね理解できているといえる。一方、基礎的・基本的な知識・技能を問う問題でも、一つの問題で複数の知識・技能を問う問題や題意を正確に読み取らなければならない問題になると、正答率が大幅に下がった。基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるだけではなく、その知識・技能を相互に関連付けたり、体系的に学ぶこと、題意を正確に読み取る力を育成することが望まれる。さらに、解答にいたるまでに複数の段階を経なければならない問題、自分の言葉で表現し説明する問題、空間認識に関する問題で正答率が低くなった。今後は、論理的に考察し、数学的な表現を用いて筋道立てて説明する活動や、観察や操作、実験などを通して考察する活動を通して、習得した知識を活用し、思考力・判断力・表現力等を育成することが望まれる。

1は、数と式の計算、連立方程式、2次方程式に関する問題について、正答率が比較的高く、よく理解できていた。基礎的・基本的な知識・技能を複数用いて解答する問題で正答率が低かった。基本的な知識・技能を相互に関連付けて活用する力の育成が望まれる。

2は、空間図形について展開図を用いて数学的に表現し処理する力を問う問題であった。空間図形を平面上に表現し、性質を見いだす問題や解答にいたるまでに複数の段階を経なければならない問題において正答率が低かった。観察や操作、実験などを通して考察する活動を通して空間図形についての理解を一層深め、論理的に考察し表現する力の育成が望まれる。

3は、図形の性質を基本的な知識・技能をもとにして論理的に確かめたり、図形の性質を用いて論理的に考察し表現する力を問う問題であった。題意を正確に読み取らなければならない問題において正答率が低かった。与えられた情報を正確に読み取って適切な手法を用いて分析し、数学的に表現・処理する力の育成が望まれる。

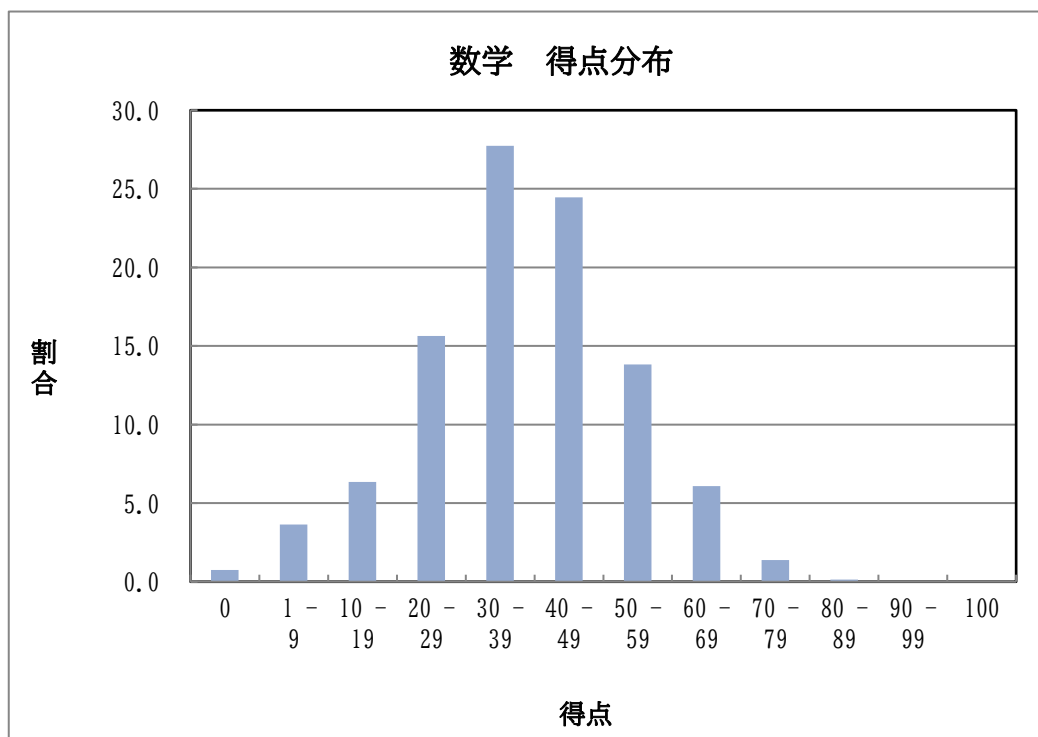
4は、日常の生活を題材にし、与えられた図の中に隠れた数量関係を見だし、関数を用いて数学的に表現し処理する力を問う問題であった。題意を正確に読み取り、与えられた複数の情報の中から必要な情報を読み取る問題、解答にいたるまでに複数の段階を経なければならない問題において正答率が低かった。習得した知識・技能をそのまま活用するだけではなく、題意を正確に読み取り、習得している知識・技能の中から、適切な知識を活用して粘り強く考察し、数学的に表現・処理する力の育成が望まれる。

数 学

問題区分		正答率 (%)
①	(1)	93.4
	(2)	88.6
	(3)	82.2
	(4)	80.2
	(5)	77.6
	(6)	83.4
	(7)	62.9
	(8)	37.4
	(9) アイ	23.3
	(9) 最頻値	35.1

問題区分		正答率 (%)
②	(1)	32.1
	(2)	10.6
	(3)	12.7
	(4)	0.7
③	(1)	32.6
	(2)	1.4
	(3)	14.0
④	(1)	36.7
	(2)	2.9
	(3)	0.4
	(4)	0.1

年 度	平均点	標準偏差
令3 (100点満点)	38.0	15.1



令和3年度 社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得をみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「地理、歴史、公民の各分野の内容が融合されており、資料等を活用し考えさせる問題であった。」、「単なる暗記では解答することができない内容であり、新学習指導要領に示された学力が問われる出題であった。」、「基礎的・基本的な中学校で学習しておくべき用語、事象などがおさえられた出題であった。」などの意見があった。

設問については、「世界の地理的事象の特色を理解した上で、様々な資料を活用するように工夫されていた。」、「日本地図や歴史地図を用いて、地理的分野と歴史的分野の融合的な問題であった。」、「歴史的分野、公民的分野とも滋賀県が扱われており、Think Globally, Act Locallyの視点からの出題であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、地理、歴史、公民の三分野における基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得はおおむねできている。正答率が低い問題に共通するのは、基礎的・基本的な知識、概念を組み合わせる正答を導いたり、資料から適切な情報を取り出して、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみたりするものであり、これらの力が不十分であると考えられる。基礎的・基本的な知識を正確に習得したり、何が問われているのかを正確に読み解き、図表やグラフから適切な情報を選択し、蓄積した知識から判断し、自らの言葉で表現したりする力の育成が必要である。社会科の学習においては、引き続き、基礎的・基本的な知識や技能を正確に身につけたうえで、各種の資料を主体的に活用したり、対話的に意見を交流したり、自分の言葉で論述したりして、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力など「読み解く力」を育成する必要がある。

①は、世界のおもな農産物を題材に、世界の地域的特色についての理解をみるとともに、各地域の地理的事象の特色や地図や環境問題などと関連付けて、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。気候や農業についての基本的な知識をみる問題の正答率は高く、中学校での学習の成果がうかがえる。一方で、地理的、社会的事象を適切な形で表現する問題の正答率が低く、知識や資料から適切な情報を取り出して、文章にまとめる力を育成する必要がある。

②は、外国と深い関係にあった日本の地域を題材に、古代から現代に至る各時代の外国とのかかわりについての理解をみるとともに、それぞれの時代の産業や交通の変化について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。資料や略地図から得た情報を、自分の持っている知識と組み合わせ、適切な文章で答える問題で正答率が低かった。基礎的・基本的な知識の確実な習得とともに考察力、表現力を総合的に育てていく必要がある。

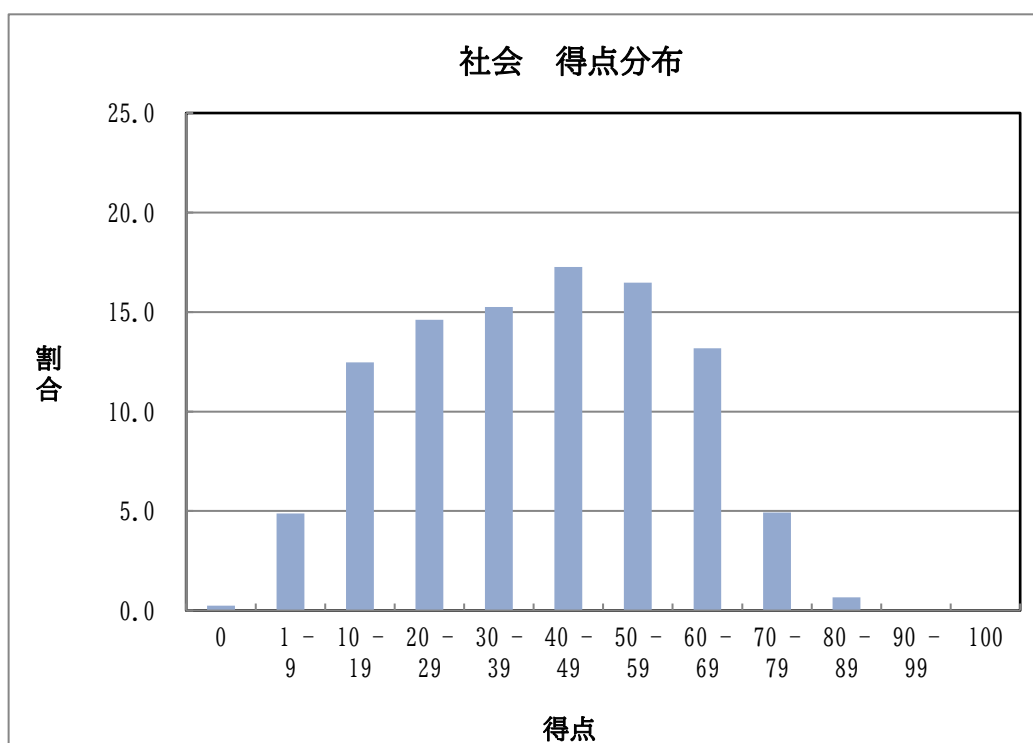
③は、国会、裁判所や地方自治を題材に、国会、裁判所などの役割についての理解をみるとともに、国と地方自治体の関係や、地方財政の課題について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。基礎的・基本的な知識や技能を正確に表現したり、資料から得た情報を適切に文章にまとめたりする問題で正答率が低かった。今後も日ごろから身の回りの生活と社会との関わりに関心をもち、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力を育てていく必要がある。

社 会

問題区分		正答率 (%)	
①	1	54.5	
	2	29.8	
	3	(1)	28.7
		(2)	21.6
	4	43.4	
	5	(1)	65.3
		(2)	81.3
	6	28.7	
②	1	32.1	
	2	39.8	
	3	34.2	
	4	6.7	

問題区分		正答率 (%)	
②	5	37.9	
	6	23.7	
	7	4.5	
	8	9.8	
③	1	(1)	5.9
		(2)	46.7
	2	(1)	46.3
		(2)①	52.7
		(2)②	63.0
	3	(3)	43.4
		(1)	56.1
		(2)	12.7

年 度	平均点	標準偏差
令 3 (100 点満点)	40.3	19.3



令和3年度 理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能をみるようにした。

また、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて、知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「実験をもとにした問題で生徒の思考力や判断力を必要とする問題であった。」
「実験を踏まえて現象を考えさせる点は、自然界の認識をしていくうえで大切な視点が含まれている。」
「普段の学習の成果を問う問題であった。」などの意見があった。

設問については、「物質の溶解や水溶液の濃度について、計算・グラフ・図示などを用いた多様な問題構成であった。」
「遺伝の分野を複合した問題であり、モデル実験の内容と関連付けた題材となっている。」
「身近な疑問や課題を、仮説を立てて実験し立証することで自然現象の理解を深める問題となっている。」などの意見があった。

3 解答の分析

物理、化学、生物、地学の各分野の基本的な知識や理解を問う問題については正答率が高く、基本的な知識は定着していると考えられる。また、自然の仕組みやはたらきについて理解を問う問題についても正答率が高かった。一方、実験や観察の結果を科学的に考察し説明することを求める問題については正答率が低かった。自然の事物や現象について、原因と結果を明らかにし論理的に表現できるようにすることが必要である。また、課題に対して適切な実験を計画し、得られたデータを適切に処理し分析し解釈する取組も重要となる。モデル実験をもとに自然の事物・現象を考察し、問題を解決するために必要な思考力や判断力を問う問題については、やや正答率が低かった。自然の事物・現象を理解し科学的に考察する力を育成するには、身の回りに起こる自然の事物・現象をモデル実験を通して説明する取組みなどが必要である。さらに、科学的な思考力や判断力、表現力を育成するため、身の回りの事物・現象に興味や疑問をもち、目的意識をもって主体的に観察や実験を行うことが大切である。

①は、ミョウバンの結晶をつくる実験を通して、物質の溶解や水溶液の濃さについての理解をみる問題であった。基本的な知識をみる問題については、正答率が高かった。一方、取り出す結晶の質量がどのように変化するかを求める問題では、正答率が低かった。実験の結果を分析し、質量が変化の様子をグラフを通して捉えることができる力の育成が望まれる。

②は、シロツメクサの観察やモデル実験を通して、遺伝の仕組みや生物の生殖の過程についての理解をみる問題であった。生物の殖え方に関する基本的な知識をみる問題については、正答率が高かった。遺伝の仕組みを調べるモデル実験の結果をもとに、校庭のシロツメクサの遺伝子を推定する力を見る問題については、やや正答率が低かった。実験をもとに仮説を検証し、その結果を文章で表現する学習活動を充実させることが望まれる。

③は、大気の状態が不安定になるときの大気の様子をモデル実験で調べ、気象現象を考察する問題であった。気象についての基礎的な知識や理解をみる問題については、正答率が高かった。一方、実験をもとにあたたかくしめった空気と冷たい空気によって積乱雲が発達する理由を説明する問題については、正答率が低かった。気象現象をモデル実験と関連付けて説明できる表現力の育成が望まれる。

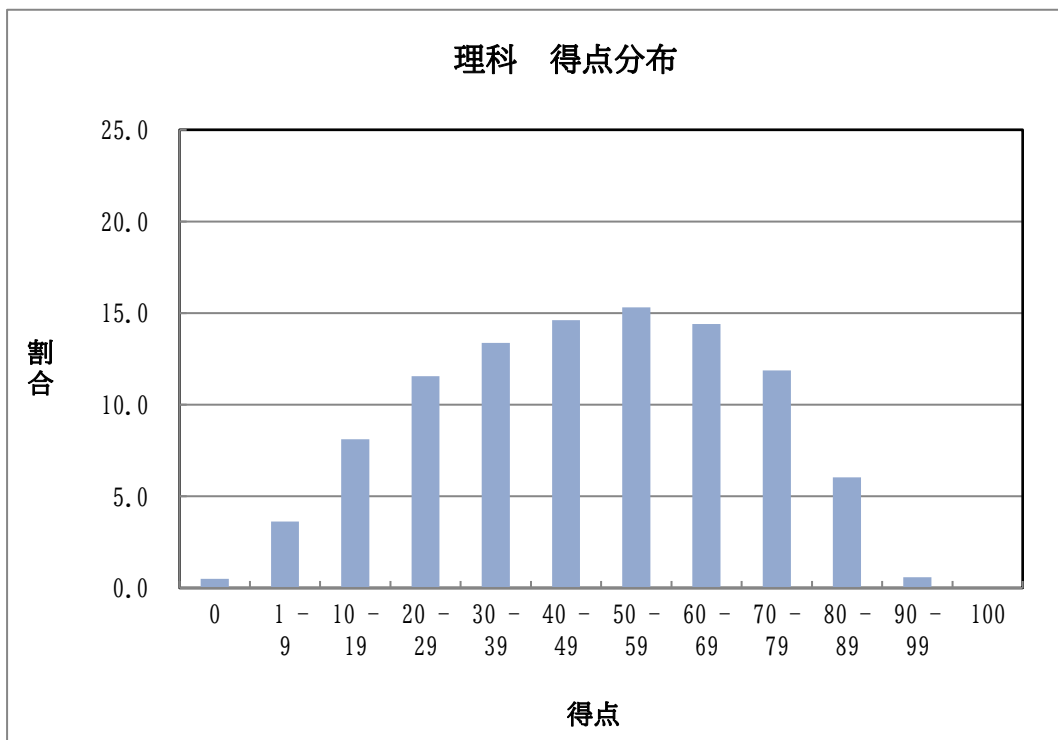
④は、発電装置の実験や台車の運動を調べる実験をもとに、電磁誘導や運動の規則性についての理解をみる問題であった。磁界の変化によりコイルに電流が流れる現象についての知識をみる問題では正答率が高かった。一方、記録テープから台車の速さの変化をグラフに表す問題については、正答率が低かった。また、斜面上の台車にはたらく力を説明する問題や、台車にした仕事の大きさを求める問題については、正答率が低かった。グラフの軸の目盛りを適切に設定して書く力や、斜面上の台車にはたらく力の分解や合成などについて図示することによって運動を理解する力の育成が望まれる。

理 科

問題区分		正答率 (%)
①	1	71.2
	2	34.0
	3	60.5
	4	39.7
	5	34.0
	6	51.5
②	1	75.1
	2	56.9
	3	62.6
	4	40.1
	5	30.5

問題区分		正答率 (%)
③	1	61.8
	2	65.6
	3	79.8
	4	35.3
	5	22.7
④	1	59.2
	2	23.5
	3	1.5
	4	3.3
	5	5.2

年 度	平均点	標準偏差
令 3 (100点満点)	47.4	21.9



令和3年度 英 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「バランス良く設問が設定されており、英語を理解し英語で表現をする力を問う問題であった。」「英語の知識だけでなく、他教科や時事問題についての知識を総合して解答する問題であった。」などの意見があった。

設問については、「英語を聞き取る力、必要な情報を読み取る力、自分の考えを表現する力を問う問題で、バランスがよかった。」「日常生活において必要とされる英語力を問う問題で、コミュニケーション能力をみる意図が明確であった。」などの意見があった。

リスニングについては、「身近な英語使用場面を想定した問題であった。」「基本から発展までさまざまなレベルの問題で、力を測るのに適していた。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、実際の言語の使用場面を想定した会話を聞いて、話し手の伝えたいことを理解する力や、身近な話題や社会的な話題についての英文を読んで大まかな内容や必要な情報をつかむ力、基本的な語彙を用いて簡単な内容を表現する力はある程度身に付いている。自分の考えをまとまりのある英文で表現する問題の正答率は上がったが、英文を聞いて自分の立場で考えを表現したりする問題の正答率は比較的低かった。実際のコミュニケーションを目的とした英語の運用能力が十分に身に付いていないと考えられる。より豊かな表現を可能にし、コミュニケーションをより充実できるようにするため、語彙や文構造の理解についてより一層の定着を図るとともに、それらを言語活動と効果的に関連付け、実際に活用できるように指導することが重要である。日ごろから、読んだり聞いたりした英文の内容を理解するだけでなく、自分なりの感想や意見などを表現するコミュニケーション活動をより一層充実させることが望まれる。

①の聞き取り問題では、身近な場面での会話を聞いて情報を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が表れている。しかし、まとまりのある英文を聞いて、自分の立場で考えを表現する問題では正答率が低かった。まとまりのある英語を聞き、その内容について話し合うような活動を一層充実させることが望まれる。

②は、博物館のイベントの案内や駅での会話、博物館での説明を素材にして、情報を正確に読み取ったり、本文の流れに合わせて適切に表現したりする力などをみる問題であった。大まかな情報を読み取る問題や会話の流れにあう適切な語句を選ぶ問題では、比較的高い正答率であったが、会話の流れに即して基本的な語を抜き出す問題や語句を並べ替える問題では正答率が低かった。日ごろから、会話の流れや文脈を意識して英文を読むような活動の充実が望まれる。

③は、授業で読んだSDGsについての英文を素材にして、説明文の大切な部分などを正確に読み取る力、内容を把握し正しく文を書く力などをみる問題であった。英文の内容を大まかな理解を問う問題では正答率が高かったが、英文の内容を理解して自分の意見を表現する問題や英文流れを理解し適切な語句を抜き出す問題では正答率が低かった。まとまりのある英文を読んだり聞いたりして、内容について意見を述べ合ったり、感想などを示したりする活動を一層充実させることが望まれる。

④は、英語の先生が授業で問いかけた学校生活の思い出について、自分の考えやその理由を表現する力を見る問題であった。正答率は上がったが、日ごろから、自分の考えを学習した表現を用いて述べ合う活動やまとまりのある英文を書く活動をさらに一層充実させることが望まれる。

英 語

問題区分		正答率 (%)		
①	その1	1	96.9	
		2	91.9	
		3	82.3	
		4	48.2	
	その2	41.9		
	その3	1	87.7	
		2	39.2	
		3	75.9	
		4	28.0	
	②	1	イ	52.8
			エ	71.0
		2	14.5	
3		22.1		
4		54.8		
5		45.9		
6		60.3		
7		30.1		

問題区分		正答率 (%)	
③	1	(1)	50.3
		(2)	21.0
	2	15.5	
	3	36.8	
	4	20.6	
	5	33.0	
6	ア	54.5	
	エ	67.9	
④		18.9	

年 度	平均点	標準偏差
令3 (100点満点)	50.5	22.6

